

小・中・高の連携と交流 ～青垣クリーンアップ大作戦～

7月15日（金）、小中高連携事業として「青垣クリーンアップ大作戦」を実施し、地域の清掃活動を行いました。この行事は、青垣地域の小学校、中学校、高等学校が協力して活動することにより、地域の子どもたちを育てる地域の学校として互いの連携を深めること、高校生をリーダーとした小・中・高の縦割り班を編成して地域活動に取り組むことで、子どもたちの「連続した学び」の機会とするとともに、地域に貢献し、将来地域で活躍する人材の育成を図ることを目的としています。



天候を心配しましたが、午後には雨も上がり予定どおり実施することができました。佐治小学校からは4年生児童約20名、青垣中学校からは1年生生徒約40名に参加してもらい、本校生徒107名との合計約170名が18の班に分かれて青垣町内佐治地区のゴミ拾いをしました。また、佐治小学校、青垣中学校の先生方も参加してくださいました。



各班約9～10名の児童生徒は、班長の高校生の先導により地域内を回ってごみを集めました。高校生が中学生、小学生に配慮し、上手に声をかけながら活動できるか少し心配でもありましたが、特に本校3年生の生徒たちは小学生、中学生をうまくリードしていたと思います。年長者が年少者を気遣いながら一緒に協力できるというのは、結構要求度の高い活動です。



異年齢と交わり、物怖じせず、自然に話しかけることができるというのは、社会に出るために必要なコミュニケーション力です。いろいろな場面でいろいろな活動をとおして、小学生、中学生、また地域の大人の方々と交流することで、生徒たちがコミュニケーション力を身に付けてくれることを期待します。最近の子どもたちは、異年齢と交わる機会が少なくなっていると思います。学校の教育活動の中にもそのような機会を積極的に取り入れ、生徒のコミュニケーション力や社会性を伸ばすことができればと思います。



また、本日も越しいただいた佐治小学校、青垣中学校の先生方の中には、本校生徒が小学生、中学生の時にお世話になった先生方がおられ、お世話になった先生方から声をかけてもらってにっこりと微笑む高校生の姿に、小・中・高連携のもう一つの意義を見ることができました。「連続した学び」として、高校生に成長しているかつての教え子たちを見守っていただける機会が持てることも小規模校の特色の一つです。

（校長 高橋信之）